

◆ 業務時間・アクセス ◆

平日 午前9時～午後6時 土日祝は休業

【大阪メトロ堺筋線・谷町線「南森町駅」から】

2番出口を出て左へ(西へ)。阪神高速の高架に向かって進む。高架をくぐったところになにわ北府税事務所があるので、その手前で左に曲がり、高架沿いに直進(南下)。1つ目の信号(西尾倉庫・みなみの森保育園の手前)で右に曲がると、右手に西天満郵便局がある。その3軒西隣が西天満コートビルです。



【大阪メトロ堺筋線・京阪「北浜駅」から】

2番出口を出てすぐの難波橋を渡る。2つ目の信号(Y字路の交差点「西天満1東」)を横断せずに右へ進み阪神高速の高架があるので、その手前の信号「菅原町西」で堺筋を北へ横断。高架沿いに直進(北上)し、2つ目の信号(左手に西尾倉庫・みなみの森保育園の看板)で左に曲がると、右手に西天満郵便局がある。その3軒西隣が西天満コートビルです。



2025年11月14日撮影
細谷優子 永田ひとみ
坂和章平弁護士 宮本三恵子



最新刊! 『シネマ58』
2025年12月出版
定価1,100円+税



『がんばったで! 51年』
2025年9月出版
定価2,200円+税

新年あけましておめでとうございます。

第1 日本は「夏の陣」も「秋の陣」も大激動!

1) 2025年7/20の参院選挙で「過半数死守」の最低目標すら達成できなかった自公政権は大敗北! 2024年10/27の衆院選挙、2025年6/22の東京都議選挙に続く歴史的な3連敗となった。他方、野党第一党の立憲民主も議席増はならず横ばい。日本維新の会も不振だった。そんな既成政党に代わって大躍進したのが、国民民主党と神谷宗幣代表率いる参政党だが、その要因は? その勢いはホンモノ?

2) そんな国民の審判にもかかわらず、石破茂前首相の続投表明には驚いたが、他方で「石破おろし反対!」の大合唱が起き、野党がそれを支持するという奇妙な現象も。そんな中、5氏による自民党総裁選挙がフルスペックで実施され、圧倒的優位とされていた小泉進次郎氏を高市早苗氏が破ったからビックリ! 続いて起きた大事件が26年間も続いた公明党の突然の連立政権離脱だ。

3) 1964年10/10、日本列島は快晴の秋空の下で開催されたオリンピックの開会式に沸いた。当時私は高校1年生、愛媛県松山市内の愛光学園に自宅から自転車通学する毎日を送っていた。自宅には旧式の白黒テレビが1台だけ。中高一貫進学校に通っていた私には、そのテレビを自由に観る自由すらなかったが、それでも重量挙げから始まり、柔道の悔しさと女子バレーの栄冠等々に湧いたオリンピック競技の熱狂ぶりは今でもはっきり覚えている。それから61年。2025年10/10に起きた「晴天の霹靂」とも言うべき、公明党の離脱劇を私は「ジャパネットクルーズ」の豪華客船MSC ベリッシマ上で知ったが、「夏の陣」に続いて10/13に帰国した後の日本政治の「秋の陣」は大激動! そこでは、「日本初の女性総理」の誕生は疑問視され、「最も総理に近い男」として玉木雄一郎が急浮上したが、意外や意外、現実には急転直下、「自維連立政権」が誕生した。

4) 高市氏には昔から日本初の女性総理への期待があったが、それが戦後80年の節目の年に、こんなハプニングを経て実現するとは! 彼女の組閣人事には不安もあるが、総理就任直後の、10/28のトランプ大統領との日米首脳会談やAPEC等での立ち居振舞いはお見事! こ

れならZ世代に自民党への期待度が高まるのも当然だ。すると、物価高対策を核とする一連の緊急対策が一段落すれば、一気に衆院解散・総選挙の実施も? もしそうならば、自維連立政権が過半数を獲得する可能性も?

第2 高市早苗×吉村洋文に期待!

1) 私は大阪維新の会立ち上げ時からの維新ファン。また、大阪弁護士会では何かと嫌われている橋下徹氏の大ファンだ。彼らが目指す「身を切る改革」にも「大阪都構想」にも大賛成。2度にわたる住民投票での挫折は残念だ。橋下氏の無責任かつお手軽なコメンテーター転身は「カラスの勝手」だが、後を託された吉村洋文氏は大変。彼も同じ大阪の弁護士だが、北区の市会議員から衆院議員に転身した彼は、その後、橋下氏の最も忠実・有能な後継者として大阪市長、大阪府知事を歴任、日本維新の会の代表まで兼任している。維新は橋下時代から菅元総理との結束が強いから小泉進次郎総裁・総理が実現すれば維新も政権入り! ? そんな可能性もあったが、高市勝利によりその目は消滅した。ところが、公明党の政権離脱表明後、高市新総裁からの1本の電話が吉村維新の進路を一変させることに!

2) 高市氏は私が弁護士登録した1974年直後から接点があり、年末年始の挨拶と『シネマ本』の送付が続いていた。奈良選出の衆院議員となった彼女は安倍派に属したから天王寺の都ホテルで開催される集会にも数回参加し、その活動を応援していたが、真面目な勉強家である彼女は自民党内でも有数の「政策通」に成長し、総務大臣や政調会長等の要職を歴任。そして総裁選挙では2度の敗北を乗り越え、日本初の女性総理を実現させたからすごい。

3) もし、玉木氏が本気でがむしゃらに総理の座に挑戦していたら? 彼は今、逃した魚の大きさを痛感しているはずだが、たった1度の対面での腹を割った話し合いで互いの「熱量」を感じ合い、信頼感を醸成させた高市×吉村会談は、近時の日本政治史における稀に見る快挙だ。1866年の薩長同盟は土佐浪人、坂本龍馬の仲介によって実現したが、10/12の高市・吉村会談とそれによる連立政権の誕生は、全て2人の「熱量」によるもの。その点で、私

は関西人の底力を信じたい。吉村維新が連立維持の条件としたのは、①衆院議員の50名削減と②副首都構想の実現、そして12項目の政策実現だが、さてその前途は?

第3 高市外交の成果と国会の行方は?

1) トランプ来日とAPEC首脳会議の日程は既定のものだったから、誰が総理になってもその対応は大変! 「総理総裁分離論」までさやかれる中、10/14に「総裁にはなつたが、首相にはなれないかもしれない女と言われている」と「自虐ネタ」を披露した「かわいそうな高市早苗」はその数日後、初外交に旅立った。その結果は、「案ずるより産むが易し」のことわざどおり、日米、日韓、日中等々の首脳外交を見事に処理し、内閣支持率は70%前後まで高まった。これは彼女の長年の努力の賜物だ。「世界の真ん中で咲き誇る日本外交」のキャッチフレーズは少し気恥ずかしいが、そんな「理想」を堂々と語る高市外交の腹の据わり方は、口先だけだった(?) 石破前総理とは大違い。高市総理の実行力に期待したい。

2) 他方、11/8から始まった国会は自維連立でもなお過半数に3議席足りない「少数与党」だから大変。物価高対策は与野党合意が可能だろうが、「政治と金の問題(企業団体献金改革)」を曖昧にして議員定数50の削減に「論点ずらし」をした維新の戦略への論戦次第では、連立解消(崩壊)の危険性も! 補正予算の成立も難産だろう。土地取得ルールや在留資格の改定を含む在留外国人対策では小野田紀美外国人共生担当相の手腕に、スパイ防止法案等では高市新総理の手腕に注目! 自維連立政権が薩長連合のように長く機能するか否かはすべて年度末までの国会(予算)の運営にかかっているのだから、それに注目!

3) 自維の連立政権合意書に明記した「国会会での衆院議員定数の1割削減」の実現は至難のワザ。難航必至だから、その成否は年末年始最大の注目点だ! 2026年冒頭の日本政治「冬の陣」はいかなる展開に? いかなる波乱に?

第4 トランプ政権1年。今後の展望は?

1) 大統領選挙の圧勝と共和党が上下院とも過半数を領するトリプルレッドで2025年1/20に発足した「トランプ2.0」は、公約どお

りの「米国第一」政策の下に大統領令を多発（乱発？）し、関税を武器とした“ディール”で世界を翻弄した。さらに、本気でノーベル平和賞を目指すT氏は、ウクライナ戦争の和平・終結を目指すべくプーチン大統領との電話会談や直接対話を重ねたが、残念ながら米中首脳会談と同じく(?)ディールでは相手の方が上!?ロシアも中国も2028年の大統領選挙と2026年の中間選挙でのT氏と共和党の“退潮”を予測し、強気の姿勢を貫徹している。北朝鮮の金正恩を含めた一党独裁型国家に比べ、数年毎に選挙の洗礼を浴びなければならない民主主義国家の弱みが今やモロに露呈!?

2) ウクライナ戦争の停戦・和平が期待薄なら、中東のガザだって!T大統領の努力でイスラエルとハマスに戦闘停止と人質交換の合意が成立したのは喜ばしいが、その履行はかなり怪しい。発足1年を迎えたT氏は自身のSNSに「私は多くの戦争を終わらせ米国史上最高の経済を築き、インフレを抑えている」と投稿し、米メディアには「偽りの世論調査を報じている」と嘔みついたが、中間選挙に向けた経済や対露政策への評価は厳しい。

3) 10/1に始まった“予算切れ”による政府機関の一部閉鎖の混乱は日本ではあり得ない異常事態だが、これは二大政党制の弊害の一つだ。“つなぎ予算案”すら上院で13回も否決されている中、頑迷な党派対立に起因する国民の負担と悲鳴はいつまで続くの?私はトランプ改革の支持者だが、こんな状況では2026年の米国はハチャメチャに?そして、中間選挙での共和党の敗北も現実には?

第5 四中全会に注目!軍内で何が?

1) 米中の軍事上の対立と経済上の対立は周知の通りだが、私は10/20~23の四中全会における9人の軍幹部の処分に注目!1960年代後半の私の学生時代は晩年を迎えた毛沢東主席の引退後の権力承継が大問題になったが、そこで起きたのが江青・張春橋・王洪文・姚文元による「4人組事件」だ。古今東西を問わず、権力者(独裁者)の権力承継をめぐる政治劇(ドタバタ劇)は興味深い。中国では四中全会で制敵組トップを含む9人の軍幹部が汚職容疑で一斉に共産党籍剥奪処分を受けたからビックリ!これは習近平国家主席が進めてきた、人民解放軍創設100年の節目となる2027年の「中台統一」への下準備だ。

2) 中国軍による台湾周辺での大規模な飛行訓練、大量の艦船による台湾封鎖訓練は近時強化され続けている。その上、プーチン大統領、金正恩主席を招いて9/3に実施された北京での「抗日戦争勝利80周年大規模軍事パレード」の威容と台北の中核部分を標的とする精密爆撃を想定した実戦準備を進めている姿を見れば、「中国梦」たる台湾統一への本気度は丸見えだ。しかして、それは一体いつ?四中全会から、それを予想する必要がある。

第6 ベネチアで藤元監督が快挙!

1) 2021年から弁護士兼映画評論家活動をしている私は、「独断と偏見」の下に、数人の映画監督とその作品の「支援」を続けてきた。2024年6月の上海国際映画祭に出品された伊地知拓郎監督、小川夏果プロデューサーによる『郷 僕らの道しるべ』(24年)もその一つだ。他方、2025年9月の第82回ベネチア国際映画祭では、私の3本目の支援作となる藤元明緒監督の『LOST LAND/ロストランド』がオリゾンティ部門で審査員特別賞を受賞!

2) 試写DVDで鑑賞した限り、暗くしんどい(だけの?)映画だから、到底今ドキの日本でのヒットは無理!私はそう思ったが、さすがベネチアだ。ウクライナ戦争の問題点にも中東のガザ地区の悲劇にも関心がなく、薄っぺらな恋愛ドラマばかり見ている日本の“Z世代”は、同作が描くロヒンギヤの悲劇について少しは真剣に考えてもらいたい。ミャンマーの女性を妻に持つ藤元監督は、「海外で外国語で撮ることに壁は感じなかった」と語っていたが、今の日本で、そこまで広い視野を持つ

た若者は少ない。2026年春に劇場公開される同作から、あなたは何を感じ、何を学ぶ?

第7 大リーグはドジャースが連覇!

1) 2024年のドジャース(D)は強かった。大谷翔平、山本由伸、佐々木朗希がお見事なら、多くのスーパースターもロバーツ監督もお見事!ワールドシリーズ(WS)制覇を正夢にしたからすごい。しかし、2025年は、唯一米国外のカナダ・トロントに本拠地を持ち、大リーグ東地区最下位だったブルージェイズ(B)が若手の活躍もあって大躍進!大リーグを制覇したから、今年もナリーグを制覇した(D)とのWSでの頂上対決は全世界が注目!

2) 分岐点は1勝1敗で迎えた第3戦。延長18回裏のサヨナラHRを見れば流れは完全に(D)へ。そんな予想に反して(B)は第4、5戦を連勝したからビックリ!スター選手ぞろいの(D)も強いが、しぶとくコツコツ打ってくる今年の(B)の実力はそれ以上!世界中の野球ファンはそんな予想を!

3) ところが、第6戦は山本由伸が6回96球で勝ち投手に。こうなれば第7戦は両軍とも総力戦。そこで登場したのが二刀流大谷の先発だが、2回は2死満塁のピンチをしるいだもの、3回に3ランHRを打たれ、がっくりと膝に手をついた。これにて(D)も大谷もジ・エンド!誰もがそう思ったが、9回に起死回生のソロHRで追いついた(D)は、山本が連投のマウンドに立ったからビックリ!

4) (D)は延長11回表のソロHRで勝ち越し、山本は1死1・3塁のピンチを併殺打ちで切り抜けたから、こりゃ神がかり!これにて(D)は歓喜の渦に。連投で3勝を上げ、WS連覇に導いた山本は当然MVPだ。他方、32年ぶりの頂点に最も近かったのは(B)。まさか、第7戦最終盤に2本のソロHRで同点、逆転されるとは!また、11回裏の同点逆転の絶好のチャンスにあんな併殺プレーが生まれるとは!もちろん、山本の「魂の連投」は立派だし、3ランHRを浴びた後も二刀流を貫き2安打した大谷も立派だが、私には最後の結果は“神の摂理”によるものとしか思えない。

5) 第7戦をTV観戦したトランプ大統領はSNSで「何という偉業なのか」と祝福。「皆さんホワイトハウスで会いましょう」と綴った。他方、阪神Tのファンとして知られている高市早苗首相は、「私が愛する阪神Tは日本シリーズ優勝を逃しましたが、日本と日本人の底力を信じてやまない者として、日本人選手の海外でものご活躍はとてうれしいニュースです」と書き込んだから、(D)のWS連覇の偉業を通じて米日両首脳の心が1つになったことがわかる。あらためて米国に渡り少年の夢を実現させた大谷、山本、佐々木の努力に拍手!そして、偉業達成おめでとう。

第8 プロ野球一阪神TはSBに敗退!

1) 藤川球児新監督の下で順調に前半戦を戦った阪神Tは交流戦に入って急失速。盛夏のL/Oだよりには、「岡田時代以上の豊富な戦力を揃えながら、さえない藤川球児采配の下でイライラさせたのが阪神T。交流戦で日ハムやロッテ・楽天・オリックス等に叩かれた上、後半戦で岡本が復帰してきた巨人に前半戦のリベンジをされたら、再び優勝は遠くなるのでは?」と書いたが、後半戦は状況が一変!村上宗隆を欠いたヤクルトは当初からビリ候補だったが、岡本和真を欠いた巨人が急失速。戦力不足の広島やDNA、中日に対して、投手陣が強い阪神Tの強さが際立って対した。中でも石井大智、及川雅貴の安定感は抜群。岩崎優も適度な休養を与えると存在感を発揮!森下を3番、佐藤を4番、大山を5番に据えた打線が、1番佐木、2番中野の活躍の下で機能し始めると、次第に“1強5弱”体制が鮮明に。

2) 阪神Tが9/7に史上最速で2年ぶり7度目のセリーグ優勝を決めたのは立派。新聞では「藤川流 令和の管理野球」、「不動1~5番猛虎象徴」、「佐藤輝開眼 不動の4番」、「鉄壁救援陣 『JFK』越え」等の見出しが躍った。

3) 私は岡田彰布前監督による阪神Tの長期政権を期待していたが、引退表明後の藤川起用はベスト。NHKでの彼の野球解説者としての能力は突出していた。岡田管理野球とは「似て非なる」球児采配は少しずつ花開いたが、最大の問題点は彼は阪神Tを強いチームだと認識していることだ。故野村克也監督の阪神Tへの招聘は青天の霹靂だったが、彼が偉いのは、自らを「弱小チーム」と認識し、「強い巨人」に勝つためにどうすべきかを常に考えたことだ。任期中での夢の実現はならなかったが、野村政権の後を継いだ星野仙一野球は完全に阪神Tのぬるま湯体質を排除し、金本知憲もそれを引き継いだ。そしてそれを集大成させたのが生え抜きの岡田監督だ。藤川阪神はそこまで強くなった阪神Tを引き継いだものの、他チームとの差は紙一重。今年だって岡本和真の故障がなければ・・・?

4) 球児監督が自らを「強いチーム」と錯覚している端的な現れは、5番大山にバンドを命じないことだ。巨人は不動の4番、松井秀樹にも岡本和真にも無死2・3塁での犠打を命じたことがあるが、本当に強いチームなら、今年のドジャースのように大谷へのバンド指示はありえない。しかし、5番大山はそれほどの強打者なの?私は球児監督の頑固さは前向きに評価しているし、休養を与えながらの長期戦を見据えた選手起用にも大賛成。木浪、小幡、熊谷らの日替わり起用にも賛成だ。しかし大山へのバンド指示なしは絶対ダメ。再考を願いたい。2025年の阪神Tにケガ人がなかったのは幸運か、管理のお陰かの判断は難しいが、もし岡本、村上のケガがなかったら・・・?

5) パリーグでは新庄剛志監督率いる日ハムの“公約どおり”の大躍進にビックリ。他方、戦力の厚いソフトバンクにケガ人が続出したため、前半戦で低迷したのは想定外だ。ところが、交流戦を境に徐々に戦力を整備したSBは、後半戦には実力を発揮。日ハムとの死闘を制したSBは予想どおり、強いはずの阪神Tを圧倒!接戦を繰り返す中で少しずつ戦力差を見せつけ、4勝1敗で日本Sを制したが、これがSBと阪神Tとの差であり、小久保監督と藤川監督の差だと私は確信している。

6) 2026年のプロ野球はまず岡本、村上の去就に注目!この2人がNPからMLBに移れば、セリーグでの阪神Tの連覇はまず間違いなし。他方、パリーグはSBに代わって日ハムの黄金時代が幕開ける可能性がある。もっとも選手層の厚さは圧倒的にSBだから、それは日ハムに「ケガ人が出なければ」の条件付きだ。

7) 昨年に続いて今年も3月のオープン戦にはドジャース来日の可能性あり!そうなった場合の野球ファンの盛り上がりは想像を絶するものがある。L/Oだより46号がお手元に届く頃には、その吉報を開きたいものだ。

第9 将棋・囲碁

1) 将棋界は羽生善治時代から藤井聡太時代に移行し、2023年10/11には史上初の8冠制覇が実現したが、近時、藤井と同世代・同学年の伊藤匠が急成長。2024年6月の観王初獲得に続いて今年第73王座戦を3勝2敗で勝利し23歳の若さで2冠を達成。藤井は6冠に後退した。伊藤VS藤井の対戦成績は6勝14敗だが、2024年度以降は6勝2敗とリードしているから強敵だ。さあ今年の展開は?

2) 囲碁界は三強争いが継続中。囲碁界の目下の最強者は7冠のうち、棋聖、天元、本因坊の三冠保持者、一力遼。挑戦中の名人を奪取すれば4冠に。かつて唯一人の7冠保持を誇った井山裕太は次第に一力に圧倒されてきたが、それでもなお王座、棋聖、十段の3冠を保持しているうえ、タイトル獲得総数は歴代1位の76個だからすごい。昨年10月に名人位を奪取して無冠を脱した芝野虎丸は本因坊戦、名人戦に続いて、棋聖戦で一力遼への挑戦権を獲得。その復活に期待!

2026(令和8)年元旦(2025年11月14日記)

坂和総合法律事務所

所長 弁護士 坂和 章平

事務所と坂和章平弁護士の近況報告

第1 弁護士業務の現状と不動産業務への新たな挑戦

1) 弁護士業務としての新件受任の数は減ったものの、なお健在だから、それは宏展弁護士と共同で受任している。他方、近時は不動産に関する事件の相談が多いから、コートビル101号室に入居している、(株)神栄不動産の山本純也氏と協力しながらの対処が増えている。万事行動力に定評のある私の手にかかれば、あの難件、この難件もたちまち・・・？

2) 私が約80坪の敷地上に建つ4階建ての中古ビルを購入したのは2001年7月。改装費用を含む出費は大きかったが、購入は大正解！それから約25年を経た今「賃料収入で食っている(?)」という意味では不動産業かも！？近時はコートビル以外の賃料収入目当ての収益マンションの数も増加！

3) 高市新政権はやっと外国人による不動産取得の規制(適正化)に取り組み始めたが、重要土地等規制法を含む難しい土地法制なら都市問題をライフワークとしてきた私の得意分野だ。近時、坂和(S)と盟友の税理士河合晃男(K)そして山本純也(Y)の3名で結成した「チームSKY」による不動産案件の受付とその処理に注目！私は何かと新しいモノやコトへの挑戦が好きだから、2026年は新しい不動産案件に次々と挑戦したい。

第2 健康状態の報告

1) 2015年9月の大腸ガンと2016年11月の胃ガン手術から丸10年を経過。以降の定期的な大腸内視鏡検査と胃カメラの実施で異常はない。2024年9月の肺がん手術後の経過も問題はなく、2025年11月のCTとMRIの検査も無事にパス。よく通っていた歯科も数本の虫歯の治療を終えたことと、定期的なメンテナンスによって順調！これなら歯は100歳まで持ちそうだ。

2) 心配なのは目。緑内障対策は眼圧を下げる目薬で症状の進行はないが、網膜色素変性症は心配。朝夕の目薬を欠かさず、また半年に1度の視野検査、眼底検査で経過観察を続けているが、寿命が続く間は悪化しないで欲しいものだ。かつてのように遠近両用眼鏡で遠くも近くもバッチリとはいかず、複数の眼鏡のかけ替えは面倒だが、喜寿(77歳)ともなればそれも仕方なし。自力で歩けること、まだまだ電動自転車でも疾走できることに感謝しつつ、大切な目をしっかり守っていききたい。

第3 執筆活動(1)『シネマ58』を出版

『シネマ58』の表紙は、実寸大の「紫電改」。巻頭特集は「戦後80年記念 決定版！日本の戦争映画史」で、『日本海大海戦』(69年)、『南十字星』(82年)、『ひめゆりの塔』(82年)、『サンダカン八番娼館 望郷』(74年)の4本を収録。

第4 執筆活動(2)『がんばったで！51年』を出版

1974年4月の弁護士登録から早くも51年！よくぞ頑張ったものだ。31年、40年、45年に続き、約650頁の大著を出版できたことに感謝！これにて「打ち止め予定」だがさて？

第5 執筆活動(3)新日本法規出版の加除本等

1) 『Q&A 災害をめぐる法律と税務』は、「所有者不明土地・建物管理制度における所有者不明土地・建物管理命令とは」、「首都圏における広域降灰対策は」、「地方公共団体における火山防災訓練の企画・運営ガイドとは」など、新設16問を執筆し、補正73問を加筆・修正した。これらは11月～12月に追録81～85号として発行された。

2) 『問答式 土地区画整理の法律実務』は7月にリモートで編集会議をし、8月に「官民が連携して復興まちづくりを行うための『官民連携復興まちづくりハンドブック』とは」、「『持続可能なまちづくりと都市交通の実現に向けた駐車場マネジメントの推進のためのガイドライン』とは」、「まちづくりの健康診断とは」の新設3問と補正14問を執筆し、10月に追録61～63号が発行された。

3) 『わかりやすい都市計画法の手引』は、10月～12月に、現在の情勢に合わせた加筆や修正を行った。追録61号～の発行は1月、2月の予定だ。

4) 新日本法規のWEBサイト「法苑WEB」の「始皇帝モノは面白い。」の連載は、「その4」(応用編(2)『コウラン伝 始皇帝の母』(前半1～38話)の紹介)が9/10にアップされた(<https://www.sn-hoki.co.jp/articles/article4265141/>)。「その5」(応用編(3)『コウラン伝 始皇帝の母』(後半39～62話)の紹介)は1月にアップ予定だから楽しみに。

第6 中国人脈の継続と広がり(1)一西安高校の生徒ら計9名と「3・6・5酒場梅田HEP通り店」で会食(8/7)(写真①)

1) 中国の西安高校1年生の生徒3人が、2年後の日本への留学視察のため、李淵博氏の紹介で教師1名と共に来阪。引率してきた教師は夏休みを利用しての来日だが、すべてプライベートの行動というからすごい。留学に向けての質問も的確で、生徒に対する強い思いやりを実感できた。その会食の席で私は即座に、2年後の阪大等の志望大学への留学がなかったら坂和奨学金を月5万円、4年間支給することを約束！

2) 息子と一緒に来日した1人の父親は古の都・洛陽居住だから、私が洛陽観光に赴いた時には、「双迎光臨」を約束してくれた。今後は、微博(ウェイボ)での連絡を続け、2年後の日本への留学を実現させたい。こんな形で新しい絆が作られたことに感謝！高校生の新鮮な夢や希望を聞いていると老人も元気が湧いてくるものだ。

第7 中国人脈の継続と広がり(2)一a子(阪大法学部)とb子(阪大経営学部修士)への坂和奨学金を決定(10月)

1) 近時の出来の悪い日本の若者(学生)に比べて中国からの留学生はめっちゃ優秀！L/O訪問で知り合った阪大法学部のa子は、日本の司法試験への最短コースでの合格を目指していることとその本気度を聞き、即座に「坂和奨学金」の支給を決定！彼女の行動の速さと勉学へのアプローチの仕方に感服！近日中の「合格！」の報告を待っている。

2) 李淵博氏の友人として9月に知り合った阪大経済学部修士のb子は、2026年4月からの大手企業への就職が決定したが、将来的には起業も視野に入れているそうだからすごい。そこで、就職までの半年だけの「坂和奨学金」の支給と私のL/Oでの短期バイトを決定。映画評論や微博の翻訳作業をしているが、“さすがの出来”に感服！

第8 中国人脈の継続と広がり(3)一李淵博氏、彼の妻と父親、毛丹青夫妻らと会食(11/6)(写真②)

1) 李淵博氏の奥さんのお父さんが長沙から来阪中のため、毛丹青夫妻らと共に難波のシルクロードウイグルレストラン「ムカーム」で会食。中国駐大阪総領事館の広報アドバイザーを務めた縁で周知の店だ。時あたかも、ニューヨーク市で反トランプ色を鮮明にした民主党の新星(左派)のママダニ氏が当選！高市新総理や日中、日米首脳会談等を含む多くの話題で盛り上がった。

2) 李氏の奥さんは上海の電通から別の会社へ移動。2人の住居は桜の宮だが上海にも住居がある。他方、お父さんは長沙に居住中だが、公務員を60歳で退職したため娘夫妻の住む大阪がより身近になつたらしい。今後は頻繁な来阪が可能だから、日本語の勉強もじっくりと！

第9 スマホをiPhone15からiPhone17に変更(10/31)(写真③)

1) 私は長い間ガラケー派かつデジカメ派だったが、2023年11月に遂に当時の最高機種たるiPhone15 Pro Max(1TB)を購入。カメラ性能の素晴らしさを享受してきたが、現実使用しているギガ数は約70GBで容量の10分の1にも達していなかった。動画撮影なし、ゲーム遊びなしだから、それは当然だ。そんな状況下、新機種が発売され、2年経過した機種の変更の案内が。要するに今、中古で売却し、機種変更すれば一番お得ということだ。1TBもの容量が不要なことも明白だ。

2) そこで10/31、思い切ってiPhone17 Pro Max(256GB)に切り替えた。カメラその他の性能の向上は全く実感できないが、現時点の最高機種スマホであることは明白。今や写真撮影はお手のものだが、せめて「タクシーGO」の活用など、さまざまなアプリをもう少し使いこなさなくちゃ。



【写真①】 8/7
西安高校の生徒3人らと
会食



【写真②】 11/6
李淵博氏、彼の妻と父親、
毛丹青夫妻らと会食



【写真③】 10/31
新しい iPhone17 Pro Max
(256GB)

ジャパネットクルーズ



【写真④】 10/4
東京・国際クルーズターミナル
クルーズ船前



【写真⑤-1】 10/6
高田屋嘉兵衛資料館



【写真⑤-2】 10/6
五稜郭跡



【写真⑤-3】 10/6
五稜郭タワー展望台から
公園全景



【写真⑤-4・5】 10/6
新選組の衣装にて



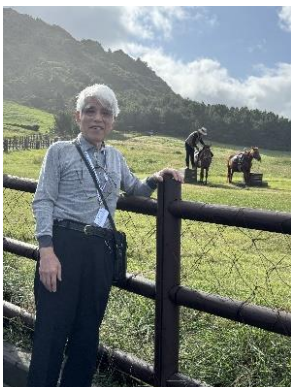
【写真⑥】 10/7
秋田・東海林太郎の
銅像と並んで



【写真⑦-1】 10/8
金沢・兼六園



【写真⑦-2】 10/8
前田利家公銅像前



【写真⑧-1・2】 10/10
済州島（韓国）・世界自然遺産城山日出峰



【写真⑧-3・4】 10/10
済州島（韓国）・城邑民俗村



【写真⑨-1】10/11
鹿児島・維新ふるさと館



【写真⑨-2】10/11
大久保利通像前



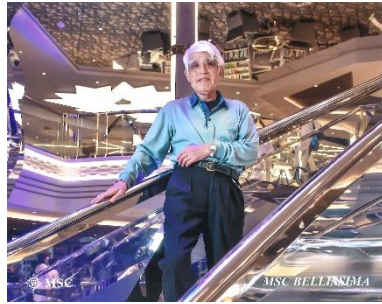
【写真⑨-3】10/11
西郷隆盛像前



【写真⑨-4】10/11
別格官弊社照國神社前



【写真⑩-1】10/12
クルーズ船のメインロビー



【写真⑩-2】10/12
プロによる有料撮影
メインロビー



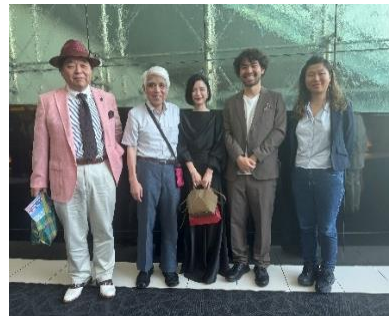
【写真⑫-1】6/17
『郷』のプレミアム試写会
TOHO シネマズ六本木ヒルズ



【写真⑫-2】6/17
プレミアムシート



【写真⑪】6/7
「安藤忠雄展 青春」
見学
VS. (ガ)ス グラングリーン
大阪



【写真⑫-3】6/17
『郷』のプレミアム試写会
終了後の集合写真



【写真⑫-5】6/18
「つるとんたん」で
夕食会



【写真⑬-1】7/13
「sora かさい」の内部



【写真⑬-2】7/13
鶴野飛行場跡戦争遺跡
(ガイドマップ)



【写真⑫-4】6/17
伊地知拓郎監督、小川夏果
プロデューサーらと夕食会
「北海道人形町店」



【写真⑬-3】7/13
地下防空壕跡



【写真⑭】8/13
小川夏果プロデューサー
と2人で会食

ジャパネットクルーズ (2025/10/4~10/13)

<9泊10日の旅(日本一周)の行程は次のとおりだ。>



日程	寄港地	入港時間	出港時間
1日目	10月4日(土)	東京	
2日目	10月5日(日)	終日クルーズ	
3日目	10月6日(月)	函館(北海道)	7:30 18:00
4日目	10月7日(火)	秋田	8:30 17:00
5日目	10月8日(水)	金沢(石川)	9:30 19:30
6日目	10月9日(木)	終日クルーズ	
7日目	10月10日(金)	済州島(韓国)	7:30 17:00
8日目	10月11日(土)	鹿児島	9:30 19:00
9日目	10月12日(日)	終日クルーズ	
10日目	10月13日(月)	東京	6:30



<旅行記は次のとおりだ。>

- ・1日目(10/4)
タクシーで自宅を出発。新幹線で新大阪から品川へ。新橋でゆりかもめに乗り換え、ターミナル駅へ。徒歩8分で港に到着。(写真④)。乗船後15階ビュッフェで待機し、15時に入室。16時から避難訓練。19時、国際クルーズターミナルを出航。
- ・2日目(10/5) 終日クルーズ
- ・3日目(10/6) 函館港に寄港
【8:00~15:00】循環バスで、はこだて明治館、高田屋嘉兵衛資料館(写真⑤-1)、箱館奉行所、五稜郭公園・五稜郭タワー(写真⑤-2・3)を観光。新選組の衣装にて写真撮影(写真⑤-4・5)。夕食後、ステージにて谷村新司「群青」を熱唱(カラオケ)。
- ・4日目(10/7) 秋田港に寄港
【8:00~14:00】循環バスで、秋田城跡、旧金子住宅、赤れんが郷土館を観光(写真⑥)。
- ・5日目(10/8) 金沢港に寄港
【9:30~15:00】循環バスで、金沢城、兼六園を観光(写真⑦-1・2)。
- ・6日目(10/9) 終日クルーズ
- ・7日目(10/10) 済州島(韓国)に寄港
【7:30~16:30】オプションツアーに参加。バスで城山日出峰(写真⑧-1・2)、城邑民俗村を観光(写真⑧-3・4)。
- ・8日目(10/11) 鹿児島港に寄港
【9:30~15:00】循環バスで、維新ふるさと館(写真⑨-1・2)、照国神社等を観光(写真⑨-3・4)。
- ・9日目(10/12) 終日クルーズ
メインロビーにてプロカメラマンによる記念撮影(写真⑩-1・2)。カルチェ、シチズンの時計を購入。

「安藤忠雄展 青春」を見学(6/7)(写真⑪)

- 1) 「大阪最後の一等地」たるウメキタ開発も巨大な都市公園の完成とともにまちづくりの最終章。そこに登場したユニークな建築物が、安藤忠雄の設計による、一部だけ地上に頭を出した巨大な半地下空間「VS.(ヴァイス)グラングリーンドア」だ。直径2.5mの青リンゴのオブジェが目を引く同所で、3/20~7/21まで開催した「安藤忠雄展 青春」を、神栄不動産の山本純也氏と共に見学。
- 2) 安藤氏の1969年からの「軌跡と現在」は到底1人の人間技とは思えない。また、来場者がメチャ多い上、膨大な書籍が飛ぶように売れているからすごい。「ミスタープロ野球」こと長嶋茂雄氏は89歳で逝去したが、1941年生まれで現在84歳の彼はなお青春真っ只中だ。「住吉の長屋」や「光の教会」を含む展示ゾーンの内容は素晴らしいが、現地へ赴いて自分の目で再度見分したい。まずはすぐ近くの扇町にある「ICHION CONTEMPORARY(イチオン コンテンポラリー)」へ!

『郷』のプレミア試写会に出席(6/17)(写真⑫-1~5)

- 1) 2024年6/16~20は、『郷』が上海国際映画祭に出品されたため、4泊5日の上海旅行へ。続いて2025年は6/17にプレミア試写会が東京のTOHOシネマズ六本木ヒルズで開催された。この情報は3月末に西天満公園で開催されたお花見会に出席した伊地知拓郎監督、小川夏果プロデューサーから聞き即座に参加を決定したが、東京への日帰り出張はもったいないため、1日目は東京の友人たちとの、2日目は映画関係者との夕食会をセットし、2泊3日の日程で上京。
- 2) 1日目の夕食会は「北海道 人形町店」に中国人脈を中心に8名が参加、KKオービックの監査役として15年間続いた東京通いは2021年以降消滅していたから、久しぶりの情報交換は大盛り上がり。旧交を温めつつ近況報告を含むさまざまな議論が花盛り!
- 3) 試写会では初めて座ったプレミアムシートの豪華さにビックリ! 映画は何度観ても素晴らしい。今回は、劉茜懿さんと山田将治氏が一緒に鑑賞したため、「つるとんたん」での夕食会ではさまざまな突っ込んだ意見も! 本作のテーマは難解なだけに、私はパンフ作りに関心を持っている。本作のキーワードの一つが「視聴覚言語」だが、それをどう捉え、本作におけるそれをどう感じ取るかも難しい。それについてさまざまな議論が展開されることを期待!

soraかさい 鶴野(うずらの)飛行場跡を見学(7/13)(写真⑬-1~3)

- 1) 宮本茂樹会として、中国自動車道の加西インターを降りてすぐの「soraかさい」を見学。そのきっかけは、産経新聞の「一聞百見」で「戦争遺跡『本物に意味がある』」を読んだこと。上谷昭夫さん(86)は、鶴野(うずらの)飛行場跡を一躍メジャーにした人物だ。
- 2) 戦争遺跡見学では①2015年3月の鹿児島知覧特攻の平和会館等の戦跡、②2019年11月の沖縄ガマ戦跡が強烈だったが、すぐ身近な場所にこんな立派な戦争遺跡があったことにビックリ! とは言っても、本物の紫電改と九七艦上攻撃機を展示している加西市地域活性化拠点施設「soraかさい」は立派に整備されているもの、鶴野飛行場資料館は仮設テントに毛の生えた程度の貧弱な建物だったから、炎天下では暑くて大変。とてもゆっくり見学できる環境ではなかった。今後の施設の充実は、焦眉の急課題だ。
- 3) 「巨大な地下防空壕跡」は見応え十分。そこで上映された映像は特攻隊員の遺書が中心で、脚本、演出は不十分ながらそれなりに良く出来ていた。資金が集まり施設や資料が整備できれば、これら飛行場周辺に点在する関連施設も全国に有名になるだろう。

小川夏果プロデューサーと2人で会食(8/13)(写真⑭)

- 1) 小川氏の来阪に合わせて、天神橋筋商店街の居酒屋で、『郷』の日本全国での劇場公開の展開と第2作、第3作への構想や着手状況等について、濃密な話し合いを実施した。九州を襲った大水害のため鹿児島在住の伊地知監督は大変だったようだが、幸い被害はなく、次回作の脚本作りに精を出し、新たな構想を固めているようだ。『郷』の日本各地の劇場での公開が今後順調に推移することを期待しつつ、彼の「思索」の深まりに期待したい。
- 2) 今回意外だったのは、私がツアー旅行を希望していた、杭州にある「中国のハリウッド」と称される「横店影視城」に伊地知監督が密接な関係があるとわかったこと。ならば、2026年春には是非その見学ツアーを! そんな計画も一気に浮上! コリヤ楽しみだ。

1)2025年12月に出版した『シネマ58』の巻頭特集は、「戦後80年記念 決定版!日本の戦争映画史」として、『日本海大海戦』(69年)、『南十字星』(82年)、『ひめゆりの塔』(82年)、『サンダカン八番娼館 望郷』(74年)を収録した。これらはシネ・ヌーヴォが2025年7/26~9/12、全40作を一挙上映した企画だ。他方、かわぐちかいじ原作の『沈黙の艦隊』を2023年9月に実写化した東宝は、シリーズ第2作として2025年9/26、『沈黙の艦隊 北極海大海戦』(25年)を公開した。「日本海大海戦」は、司馬遼太郎の『坂の上の雲』の愛読者はもとより歴史好きの日本人なら周知の事実だが、「北極海大海戦」って一体ナニ?それは同作を観ればわかるが、うれしいのはその公開記念として約30年前のアニメ版計3作がテレビ放映されたことだ。折しも、防衛省が設置した「防衛力の抜本的強化に関する有識者会議」が2025年9月に提出した「報告書」は日本における原子力潜水艦の必要性に踏み込んだが、10/10の公明党の連立政権離脱後の政治の急展開の中で生まれた自民党と日本維新の会の連立政権では「安保三文書」の前倒し改定、「国家情報局」の創設等も合意した。更に10/28に来日したトランプ大統領との首脳会談を果たした高市早苗総理は「日米同盟黄金時代」の到来と防衛費を国内総生産(GNP)比2%に増額する方針を伝達した。さらに小泉進次郎防衛大臣は、韓国原潜保有をトランプ大統領が「承認」したことを受けて、日本での原潜保有の必要性について言及したから、高市新政権の防衛政策に注目しつつ、一気に『沈黙の艦隊』劇場版とアニメ版を鑑賞したい。

2)『沈黙の艦隊』(23年)『シネマ55』158頁)

かわぐちかいじの漫画『沈黙の艦隊』と私との出会いは、1988年に入所してきた40期の女性弁護士の紹介によるもの。そこには、日本が原子力潜水艦を保有!その原潜が核武装!そして、何と独立国やまとの独立宣言!等々の驚愕すべき内容が満載!この壮大な世界観は、平和に酔い、バブルに酔い、北新地での酒と歌の日々に酔っていた私にとって大衝撃だった。

『キングダム』の実写化は可能だが、『沈黙の艦隊』の実写化は到底ムリ。なぜなら、日本はまだまだ朝日新聞的な平和主義(平和観?)が横行し、原潜や核武装化をテーマにすること自体がタブーなのだから。私はそう思っていたが、『キングダム』の王騎役で大奮闘する俳優・大沢たかおの努力もあって、ついにそれが実現!冒頭の展開や海江田艦長と深町艦長との対比は原作どおり。日本政府首脳陣の描き方は今風にアレンジされているが、中盤に登場する米太平洋艦隊のド真ん中に浮上するくやまと艦長海江田の核武装をバックにした、独特の“交渉術”は原作とほぼ同じだ。こりゃ面白い!こりゃ必見!2022年12月に安全保障関連三文書を改訂し、安保防衛についての真面目な(本格的な)議論が始まろうとしている今、本作の公開は実にタイムリーだ。

折しも、北朝鮮が潜水艦を保有!台湾も自前の潜水艦「海鯤」の進水式を行った。さあ、今後、原潜くやまと)はどこへ?原作のように、海江田は米本土近くに現れ、米国大統領との“首脳会談”を要求するの?そんな興味ある展開を大スクリーン上で観るためには、本作のシリーズ化が不可欠だ。『キングダム』は既に3作が公開され、第4作も予定されている。今後は毎年夏にシリーズ化された両作をタツプリと楽しみたい。

3)『沈黙の艦隊 北極海大海戦』(25年)『シネマ59』予定)

潜水艦モノは面白い!それが弁護士兼映画評論家たる私の持論だが、まさか、かわぐちかいじの人気漫画『沈黙の艦隊』が実写化・シリーズ化されるとは!戦後の平和憲法と日米安保条約の下で、“非核三原則”と“専守防衛”に徹してきた(縛られてきた?)日本も、故安倍晋三内閣の下で2015年に「安保法制」を確立させたが、原潜の保有は夢のまた夢だ。第1作(『シネマ55』158頁)では、海江田四郎艦長による独立戦闘国家くやまと)の建国とその独立宣言に驚かされたが、第2作たる本作では、日本の連合艦隊がロシアのバルチック艦隊に大勝利した『日本海大海戦』(69年)ならぬ、原潜同士の「北極

海大海戦」の息詰まる攻防に注目!「魚雷戦ヨーイ!」だけではない、複雑極まりない氷の下での、ソナーを核とした原潜対決のリアルさを堪能したい。

本作では“やまと選挙”と“やまと保険”に注目!竹上総理は、独立国家くやまと)の建国を認めたらうえ、日米安保条約とは別にくやまと)との軍事同盟まで締結したからすごい。さらに、与党の猛反発を受けるや、新党の結成と衆院の解散・総選挙を決断。そこで見事に勝利し、「軍備永久放棄」を掲げる鏡水会との連立まで決意したが、そのココロは?さらに、鏡水会が提案したくやまと保険)とは?本作は五氏による自民党の総裁選挙の真っ最中に公開されたが、バラエティ色さえ漂う総裁選挙のバカバカしさには、いささか辟易。それに比べれば、くやまと)建国に端を発した、本作の政治闘争と軍事衝突はメチャ面白い。竹上総理の姿に、2005年9/11の郵政解散総選挙を断行した小泉純一郎元総理の姿をダブらせたのは私だけ・・・?

4)『沈黙の艦隊(アニメ)』(96年)『シネマ59』予定)

海上自衛隊のディーゼル潜水艦が何らかの事故で沈没!そんなちっぽけな情報には誰も見向きもしないが、万一それが、米国と共同して日本が開発した新型原子力潜水艦の誕生を秘匿するための大芝居だとしたら?

そんなバカな!と思いつつ、かわぐちかいじが1998年から「週刊モーニング」に連載した本作のアイデアと構想力そしてその世界観に脱帽!しかも、“独立国家やまと)の建国を宣言した海江田四郎艦長が、平和憲法と非核三原則に縛られた日本との友好条約(軍事同盟?)の締結を求めるとは!他方、日米安保条約って一体ナニ?1960年の安保反対闘争は有名だが、故安倍晋三内閣が2015年に成立させた「安保法制」を含め、今や安保条約も自衛隊も日本国民に定着し、日米安保条約は確固たるものに!?そう思っていたが、あの時代も、そして「トランプ2.0」が始まった今も実は・・・?

社説でもやっと、原子力潜水艦導入の可否が議論され始めた昨年、30年近く前の『沈黙の艦隊』アニメ版計3作がテレビ放映された価値は大きい。アニメ版計3作をしっかりと鑑賞し、日本国の行く末をしっかりと考えたい。

5)『沈黙の艦隊 VOYAGE2(アニメ)』(97年)『シネマ59』予定)

1960年の日米安保条約改定をめぐっては、「安保反対!」の大合唱の下に国民的反対運動が盛り上がった。そして学生運動の高揚の中で、東大の女子学生だった榊美智子さんの死亡という大事件も勃発した。さあ、それに比べて、本作に見る、竹上総理が独立国家くやまと)の元首海江田四郎との同盟条約締結に臨む姿勢は如何に?そもそも平和憲法があり、非核三原則の堅持を国是とする日本に、核武装をちらつかせた原潜くやまと)の入港が認められるの?VOYAGE2では、そんな緊張感の下、米原潜の攻撃をかいくぐり、反撃し、補給を受けながら、ただ1人で日本政府との会談に臨む海江田元首の条約締結に向けての駆け引きと決断に注目!

「くやまと)は国際テロリスト集団として処分されるだろう」と叫ぶ米国のベネット大統領に対し、堂々と「日本は深い宗教観を持っている上、宗教で政治が動かされていない唯一の国だ。宗教と政治が分離しているそんな日本と、軍事国家たるくやまと)の同盟は大きな価値があり、未来を示している。国家レベルの政教分離は世界規模で行うことも可能だ。」と持論をぶつける海江田の熱い想いに注目!

6)『沈黙の艦隊 VOYAGE3(アニメ)』(98年)『シネマ59』予定)

「北極海大海戦」って一体ナニ?それを知っている人は『沈黙の艦隊』のファンだけだが、その展開は如何に?最新鋭の原潜同士の対決など、戦艦同士の対決以上にマシなケースだが、なぜVOYAGE3ではそれが発生したの?東宝が「8.15シリーズ」として制作した『日本海大海戦』(69年)、『シネマ58』12頁)も迫力満点だったが、海の中に深く静かに潜りながら静かにかつ密かに魚雷攻撃を仕掛けてくる最新鋭原潜同士の対決を描く本作も迫力満点!その醍醐味を、ある“あっと驚く実態”と共にタツプリ楽しみたい。

弁護士兼映画評論家 坂和 章平の出版物の紹介

〈まちづくり本、法律書〉



(96年5月) (01年6月) (03年9月) (04年11月) (05年4月) (07年7月) (08年4月) (15年11月) (17年6月)

〈実況中継シリーズ全4冊〉

〈その他の著書〉



(17年6月) (23年1月) (12年4月) (00年7月) (02年9月) (04年6月) (06年9月) (04年5月) (05年10月)

〈コラム集〉

〈名作映画シリーズ〉

〈中国語の著書〉



(05年8月) (13年12月) (19年4月) (10年3月) (10年12月) (19年3月) (20年5月) (09年8月) (12年8月)

〈『シネマルーム』シリーズ 既刊全57巻〉

